

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170400465
法人名	有限会社 夢 家 族
事業所名	グループホーム 夢家族・正木
訪問調査日	平成20年12月6日
評価確定日	平成21年2月6日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社 夢 家 族		
事業所名	グループホーム 夢家族・正木		
所在地 (電話番号)	岐阜県羽島市正木町新井4丁目945番地 (電 話) 058-392-8740		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成20年12月6日	評価確定日	平成21年2月6日

## 【情報提供票より】(20年12月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.1 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,050 円

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	7 名	男性 3 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 76 歳	最低 63 歳	最高 84 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松波総合病院、いわたクリニック、安江病院、タカダ歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム夢家族の5ヶ所あるうちの1つである夢家族・正木は、主要道路より南へ少し入った、静かな所にある。ホームの東側には利用者と共に作る野菜畑があり、又南側には、四季折々の花がみられる花壇がある。ホーム内の共用部分の居間兼食堂はくつろいで、心豊かに安心して暮せる空間である。介護計画はケアの取り組みと記録が連動したものとなっている。さらに職員のチームワークもよく、墓参り、里帰り等の事業所の多機能を活かした支援や、災害対策等にも積極的に取り組み、利用者の安心感を得られるケアがある。利用者の穏やかな笑顔と職員の明るい表情が印象的であった。今後もより一層、家族や地域の協力を得ながら利用者が満足されるケアを期待したいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域とのつきあい、職員の教育、プライバシーの確保、災害対策全てに改善が見られている。特に地域の方たちとのつながりはホームの利用者はもとより職員のケアに対する前向きに取組む姿勢を後押ししている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目を職員全員に配布して意見を出してもらい、ケアマネージャーと相談して管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族会を運営推進会議の前に開いて家族の代表の参加を期待しているが家族の参加がない。市町村には運営推進会議の参加の他、地域とのつながりや行事に関する情報を提供してもらい参加している。地域のグリーン作戦(ゴミ拾い)にも利用者とともに参加することができた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の請求書送付に合わせて家族通信を送り、利用者の暮らし振りや健康状態を手書きで書き添えて報告している。利用者の大半は家族がなく、家族の訪問も限られた人になっているが管理者は家族に呼びかけを続けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>活用されていなかったホーム横の畑を利用者とともに整備することで収穫物をおすそ分けがきっかけで近隣の方々とのコミュニケーションができ、交流が活発になった。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心感」という理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念としては伝わりにくい。	○	地域密着型サービスを念頭に、ホームの目指しているサービスを再確認した上で伝わる表現を今一度検討されることを希望したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	シンプルで覚えやすく職員は理念を共有して実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	活用されていなかったホーム横の畑を利用者とともに整備することで収穫物をおすそ分けがきっかけとなり、近隣の方々とのコミュニケーションができて交流が活発になった。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を職員全員に配布して意見を出してもらい、ケアマネージャーと相談して管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政担当者等の参加のもとに定期的に開催されている。消火避難訓練、外部評価の結果報告、利用者の紹介、利用者の暮らしぶりの報告など様々な議題で意見も得ることができる状態で進められている。音楽療法を開いたときは委員の参加もあって徐々にホームの理解と協力が得られるようになってきている。		

グループホーム 夢家族・正木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村には運営推進会議の参加の他、地域とのつながりや地域の行事などの情報を得ている。地域のグリーン作戦(ゴミ拾い)にも利用者とともに参加することができた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書送付に合わせて家族通信を送って利用者の暮らし振りや健康状態を手書きで書き添えて報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の大半は家族がなく、家族の訪問も限られた人になっている。管理者は家族に呼びかけを続けている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は系列グループホーム間ではあるが、ホーム間の交流があるため職員は馴染みとなっていて、利用者は混乱することがほとんどない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に参加することを促しており、職員も参加するようになってきている。現場での教育、特に技術については必要と認めたときに管理者が行っている。</p>	○	<p>研修を記録して残していない。教育計画を立てて臨む段階には至っていないが現在行っているものを記録に残すことで一つ一つ確かなものにしていくことが望まれる。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームに管理者と職員が見学に出向いてサービスに活かすよう努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームに本人や家族が見学に来てもらうようになっている。また、ホームに来る前に居室に馴染みのものを入れ、居室を作ってから利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員にとって知恵袋のような存在となっていて、食事の味付けの相談役になっている。また、職員の服装についても関心を持っていて「今日のズボンかっこいいな」などと声かけしてくれるなどの関係がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で特に、夜間のお茶をのむときに利用者の思いを聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日ごろの介護で気づいた事をケアマネージャーに報告し、ケアマネージャーも利用者と話をして計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回計画の見直しを行って入る。利用者の変化で見直しが必要になったときは速やかに計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前には独居だった方が多い為、個別の状況に応じ、支援が十分なされている。墓参り、里帰り、家を見に行く等、通院支援をかねて行っている。また、家族がホームに宿泊されるケースもある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、入所前からのかかりつけ医の受診を受け、受診結果は月2回家族に報告がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合、家族の意見も聞き、主治医との連絡も十分に取、介護に当たっている。緊急時には、入院体制を取っている。ホームの方針を文書化はされていない。	○	家族と話し合いを密にし、利用者が安心して終末期を迎えられるよう、家族と共に終末期を迎えられる方針に少しでも近づける為にマニュアル化を希望したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へのさりげない声かけにも、十分な配慮があり、優しい言葉かけである。個人の排泄表等の管理は、外来者の目の触れない所に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のお気に入りの喫茶店までの散歩、近くにあるスーパー銭湯や、ペットショップへの散策等、楽しみ事の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をより一層おいしく食べられる様、良質なお盆や食器を使用し、職員も共に食事をしている。訪問時は小豆から炊いて作った餡を使ってのおはぎであったが訪問していた家族とともに会話をしながらの食事であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は週2回、夏場は3回の入浴回数としているが、希望により、シャワー浴を取り入れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の新聞の取り入れや、朝の玄関の鍵あけ、洗濯たたみ、掃除等の役割がある。また季節ごとの野菜作り、花植え、干柿作り等、楽しみ事の支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に作ってある野菜を、毎日見に行ったり、ホームの南側にある花壇をながめたり、外出日和りにはホーム周辺の散策に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を把握し、日中は施錠せず、玄関扉には鈴をつける見守りの体制を取っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年の消防訓練は、運営推進会議のメンバーに協力してもらい、利用者と共に行われている。水の備蓄は倉庫にあり、その他の食品、必要物品は、本部に備蓄してある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養摂取量や、水分量を把握し、毎日チェックし記録もあり、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、食堂等の、共用空間には、生活感や、季節感のある花や、利用者が作った壁掛けがある。またソファを3ヶ所に配置し、居心地良く過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には布団、収納ケース等、使い慣れた物が持ち込まれ、利用者一人ひとりが思い思いに居心地良く、過ごせる工夫がある。		